

令和7年1月23日(木)14:00~@校長室

令和6年度 第3回学校運営協議会

出席者:上川 紀久恵委員委員・森田 真由子委員・遠藤 真砂美委・森 繁樹員
校長・教頭・首席

(1)堺東高校がおかれている現状について説明

<校長より>

ppスライド(動画)をまじえて説明

■あいさつ

■堺東高校の現状の報告

- 朝読の導入…全学年一斉に実施。校時は、5分ずつ後ろにずらすことで対応した
- 情報共有ツール(Google Chat)を導入…総合学科ならではの教員数の多さや、業務の多様さの中で、より円滑に情報を共有するため
- 緊急時マニュアルの再共有・再確認…不審者の侵入や、地震等の災害がおきたときの対応を円滑に進めるため

■令和10年度の入試改革についての説明

- アドミッション・ポリシー(求める人物像)に基づいた特色ある選抜を優先的に実施
- 日程は前倒しされる(3/1)
- 改革が実施されることを踏まえ本校の魅力の再検討とアピールが必須となる

■不登校対策

- 自立支援コース設置、拠点サポート校といった環境や教員の多さをいかし、学ぶ生徒にとって優しい学校をめざす

■英語教育の充実

- Base in Osakaの導入・活用の実施

■令和7年度 学校経営計画及び学校評価の変更点について

- めざす生徒像の記載について、グラデュエーションポリシーとして発表している3項目に内容を変更する

□開かれた学校づくりの推進と情報の発信の項において、緊急時の連絡手段の構築と活用(さくら連絡網/Google Classroom/Google Chat)を記載する

□魅力ある講座や探究的な学習の時間の内容について定期的・能動的に改善し、ホームページやインスタグラムといった広報手段を積極的に活用する

□帝塚山学院大学や大阪人間科学大学との連携や近隣のターゲットバードゴルフ場の利活用など、それぞれの分野における専門家の協力を得ながら魅力ある授業を模索する

(2) 質疑応答・情報共有

■上川委員 不登校生徒の増加は勤務する中学校でも課題となっている。子ども同士が協力して課題に取り組むことが不登校対策の一助となっている。自分の意見を言う活動や主体的に活動するプログラムを取り入れることが効果があるように感じている。入試改革については、中学校にとって、試験日の前倒しによって、入試が終わった生徒にどう対応するか、でこれから頭を悩ませることになると予想している。また、学校に行きたくないことを認める、オンラインで授業に参加させるといった、これまでにはなかったことが、これから普通に起きると考えている。

□校長 コロナ後、登校してきた生徒だけではなく、登校していない生徒の対応が必要となっており、以前と比べて負担は少なくないと感じている

■森田委員 夢チャレンジの授業で、スライドを作成し、子どもが沢山の人のに向けて発表できたことにとっても感動した。

■遠藤委員 堺東高校は、地震が起きたときに開放する施設となっている。3年前、備蓄物や施設を見学させてもらった。いざ、災害が起きたときに、校内に生徒がいるなかで、避難してくる住民が出た場合に、どのように場所を提供するかなどもこれから考えていくべきだとも思う。どこにどのようなものがあるのか、見学会をさせていただきたい。校内にある備蓄物をみて、自治会でさらに必要なものを検討したい。

□校長 見学会はぜひ検討したい。

□森委員 市職員は、避難所の開設は行すが、市職員が運営を行うことを想定していない。地元の自治会にまかされる。

□教頭 先日、福祉を必要とする人やペットをつれた人の避難について市防災課が相談に来ていた。今後のため、自治会とは連絡・情報共有を検討したい。

□山田首席 教員側も「生徒の安全確保」は意識があるが、教員が地域の方にどう対応するかといった視点は欠落しているように思う。

■森委員 入試制度の変更があると、変更直後の生徒・中学・高校は大変だと思う。ただ、去年は多くの学校が定員割れしているので入試制度の変更・改革はやむをえないとも思う。同窓会のメンバーとしては、堺東高校が、統廃合の対象とならず、がんばって対応していただきたいと思う。

■森委員 自立支援コースの定員は3名で変わらないのか。

□校長 府下全域で支援コースの設置校は増えているが、堺東高校の募集定員は3名で変わらない。

(3)連絡事項

- ・翌年度の開催について案の提示
- ・卒業式の案内

(4)閉会